



カムイスキーリンクス

管理運営計画

令和7年度～令和11年度

令和7年12月

旭川市



－ 目 次 －

第 1 章 計画の概要

- 1 計画策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第 2 章 リンクスの現状

- 1 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 これまでの主な取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第 3 章 リンクスに求められる役割・機能

- 1 交流人口増をもたらす体験型観光の拠点としての機能・・・・・・・・ 14
- 2 競技力向上に向けたスノースポーツの競技拠点としての機能・・・・・・・・ 16
- 3 長く愛され続ける市民スキー場としての役割・・・・・・・・ 17

第 4 章 施設改修計画

- 1 改修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2 地方債の償還計画・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第 5 章 収支の見通し

- 収支の推計（指定管理事業）・・・・・・・・・・ 21

（参考）各種資料及び調査結果

- 1 国内スノーリゾート市場の現況・・・・・・・・・・ 23
- 2 利用者アンケートの結果・・・・・・・・・・ 26
- 3 従業員への聞取・・・・・・・・・・・・・・・・ 33



第1章 計画の概要

1 計画策定の背景

カムイスキーリンクス（以下「リンクス」という。）は、昭和初期に「国設神居山スキー場」として開設され、昭和59年には名称を「カムイスキーリンクス」に改め、以降、40年間にわたり運営されています。

開設以来、長年にわたって多くのスキーヤー、スノーボーダーに親しまれ、市民の心身の健全な発達やスポーツの振興といった本市のまちづくりにも不可欠な施設となっています。また、近年ではインバウンド利用者の増加や体験型観光のニーズ拡大を背景に、冬季観光拠点施設として地域経済の活性化にも重要な役割を果たしています。

その一方で、設置後40年以上を経過している施設の老朽化や狭あい化といった課題が顕在化しており、来場者の安全性や利便性の向上を図るためにも、できるだけ早期の施設改修や更新に着手することが必要です。

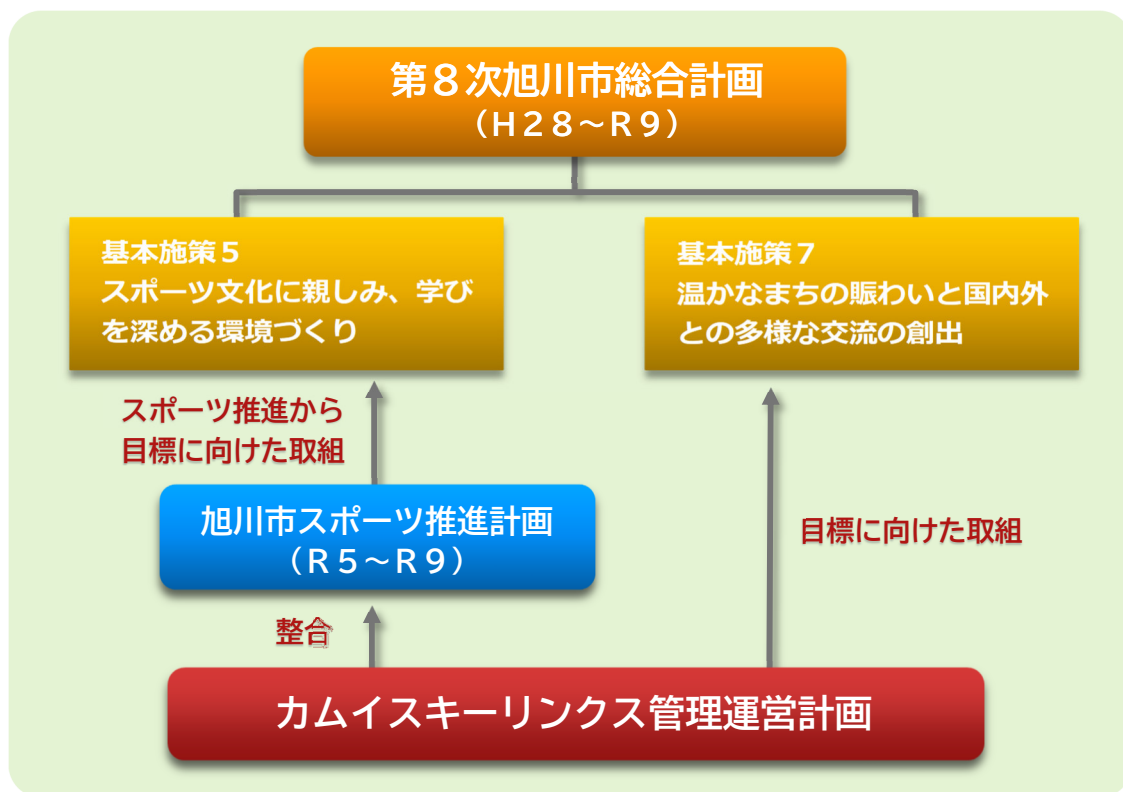
今後、適切かつ計画的に施設改修を進めるためには、スキー人口の減少やインバウンド利用者の増加といったリンクスを取り巻く環境の変化を踏まえながら、リンクスに求められる役割や機能を改めて整理した上で、多様化するニーズに対応したサービスの充実を図るなど、来場者や収益の確保に向けた取組を推進することが重要です。

こうしたことを踏まえ、リンクスが安定した経営基盤を確立し、今後も長期にわたり、その役割を果たしていくための事業計画を定める「カムイスキーリンクス管理運営計画」を策定します。



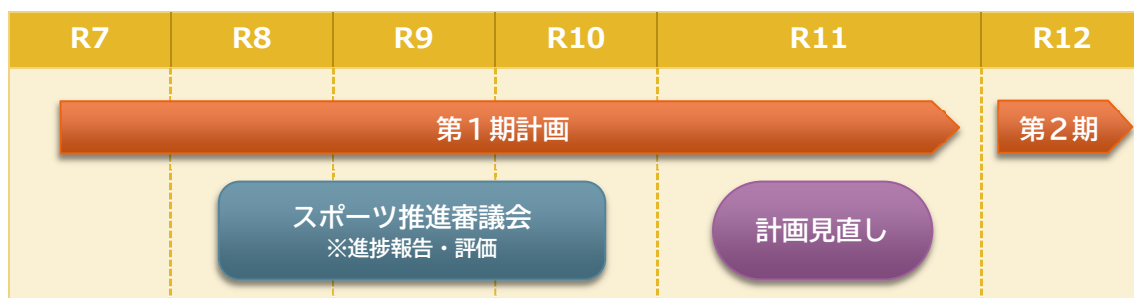
2 計画の位置付け

リンクスはスキーやスノーボードを中心としたスノースポーツ施設としての側面や冬季観光資源としての側面を有しているため、本計画は第8次旭川市総合計画の基本政策である「スポーツや文化に親しみ、学びを深める環境づくり」や「温かなまちの賑わいと国内外との多様な交流の創出」、旭川市スポーツ推進計画が掲げる施策の推進を目指しながら、求められる役割や整備計画等、今後のリンクスの方向性を定める計画として位置付けられます。



3 計画期間

本計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とし、随時見直しを行い、附属機関であるスポーツ推進審議会で進捗状況の管理や評価を行います。



第2章 リンクスの現状

1 施設概要

〈 基本情報 〉

○所 在 地：旭川市神居町西丘

○設置年月日：昭和59年12月18日

○敷地面積：約166ha（市有地：約79ha 国有地：約87ha）

○標 高：山頂751m / 山麓150m / 標高差601m

○リフト数：ゴンドラリフト1基 / ペアリフト5基

○コース数：全26コース（うちFIS公認コース3本）

○総滑走距離：24,700m

○斜 度：平均斜度18% / 最大斜度35%

○開設期間：12月1日から翌年の3月31日まで

○開設時間：午前9時から午後5時（スキーリフトは午後4時）まで



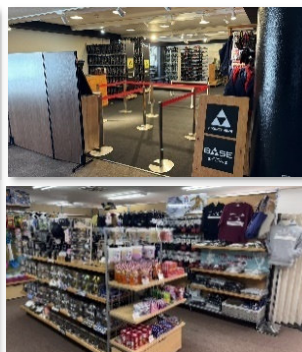
〈 これまでの経緯 〉

時 期	内 容
昭和初期	「国設神居山スキー場」として開設
昭和５８年度	日本ゴルフ振興(株)が旭川神居山スキー場(株)を設立
昭和５９年度	「カムイスキーリンクス」として、営業を開始
平成１５年度	日本ゴルフ振興が経営破綻し、旭川市がスキー場資産を寄付受入無償貸し付けにより、(株)旭川北インター開発公社に運営委託
平成２５年度	指定管理者制度により、アライ地所(株)が運営開始
平成３０年度	指定管理者制度により、(一社)大雪カムイミントラ DM0 が運営開始
令和５年度	(一社)大雪カムイミントラ DM0 が指定管理更新により運営継続

〈 主な建築物 〉

○センターハウス

建 設 年	昭和５９年
延床面積	2,352.72㎡
構造階数	ＲＣ造３階建
機能設備	券売所 / レンタルショップ / 売店 / レストラン / ロッカー室 コンシェルジュデスク / 特別室
改修履歴	平成30年度：温風暖房機更新 外部階段及び自動ドア改修 令和元年度：外壁及び屋根改修 令和３年度：地下重油タンクの内面防食及び給油設備改修 高圧ケーブル・受変電盤改修 令和４年度：給湯ボイラー取替 令和５年度：１階照明ＬＥＤ化 令和６年度：トイレ多目的化改修、特別室改修



○レストハウス（ラーメンハウス）

建設年	昭和61年
延床面積	287.01㎡
構造階数	S造平屋建
機能設備	レストラン（ラーメン屋）
改修履歴	令和6年度：外壁改修



○山頂レストハウス

建設年	昭和60年
延床面積	460.24㎡
構造階数	S造一部RC造2階建
機能設備	レストラン
改修履歴	平成30年：機械設備・電気設備・暖房設備更新 トイレ・ホール・階段改修 令和元年：外壁・屋根・内部改修 機械設備・電気設備改修

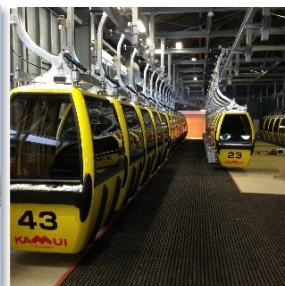


○受電室・汚水処理室

建設年	昭和60年
延床面積	63.85㎡
構造階数	S造一部RC造平屋建
機能設備	受変電設備 / 浄化槽設備
改修履歴	平成25年：浄化槽設備改修 平成27年：屋内受変電盤更新 令和2年：浄化槽散気管・自動制御盤更新

○ Gondola Station

建設年	昭和60年
延床面積	1,254.37㎡
構造階数	RC造一部S造2階建
機能設備	Gondola Lift Stop
改修履歴	令和3年：屋根・外壁改修、電気設備工事



＜索道設備＞

○ Gondola Lift

改修年度	平成26年度
全長	2,327.52m
搬器数	87台

○ 第1ペアリフト

改修年度	平成27年度
全長	833.87m
搬器数	140台

○ 第2ペアリフト

改修年度	平成28年度
全長	974.55m
搬器数	142台

○ 第3ペアリフト

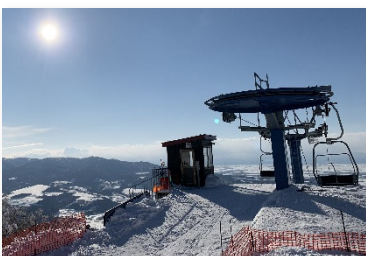
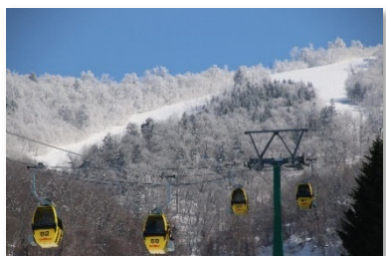
改修年度	平成29年度
全長	636.83m
搬器数	62台

○ 第4ペアリフト

改修年度	平成27年度
全長	754.26m
搬器数	140台

○ 第5ペアリフト

改修年度	令和8年度予定
全長	999.61m
搬器数	145台



〈 圧雪車 〉

○ケースボーラー社

型 式	ピステンブーリー 400Park
台 数	2台
年 式	平成25年
走行時間	約10,000時間



○大原鉄工所

型 式	DF430
台 数	2台
納車年度	平成30年
走行時間	約5,500時間

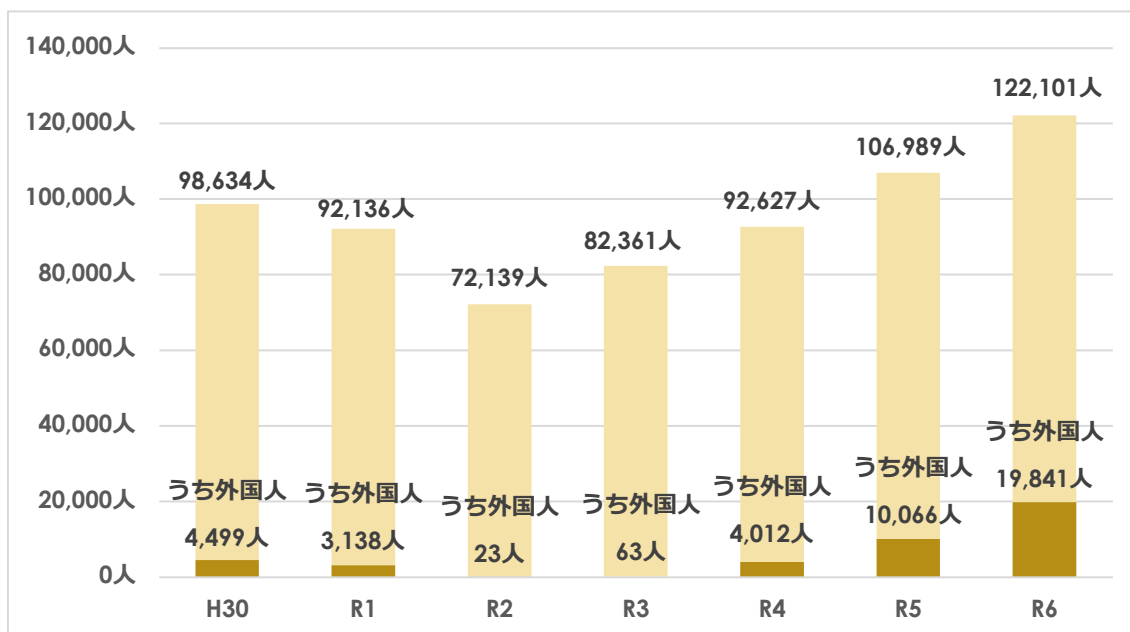


※走行時間は令和7年3月末時点

2 運営状況

一般社団法人大雪カムイミンタラDMO（以下「DMO」という。）が指定管理者となった平成30年度から令和6年度までの運営状況は次のとおりです。

（1）来場者数の推移



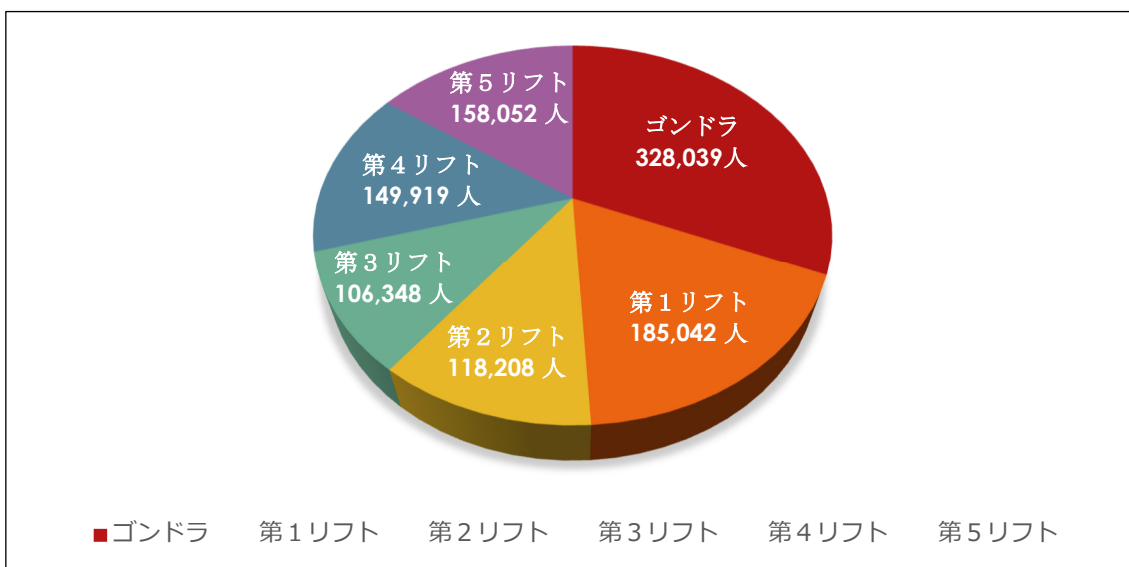
新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の流行に伴うロックダウン等の影響により、インバウンド利用者を中心に来場者数が減少し、令和2年度シーズンは7万人台まで落ち込みましたが、令和3年度以降は増加に転じています。

新型コロナが5類感染症へ移行した令和5年度は来場者数が10万人を越え、令和6年度は、平成30年度にDMOが指定管理者となって以来、最高値を更新しています。

特に近年は、インバウンド利用者の増加が顕著であり、令和6年度には全体に占めるインバウンド利用者の割合は16%を超えました。

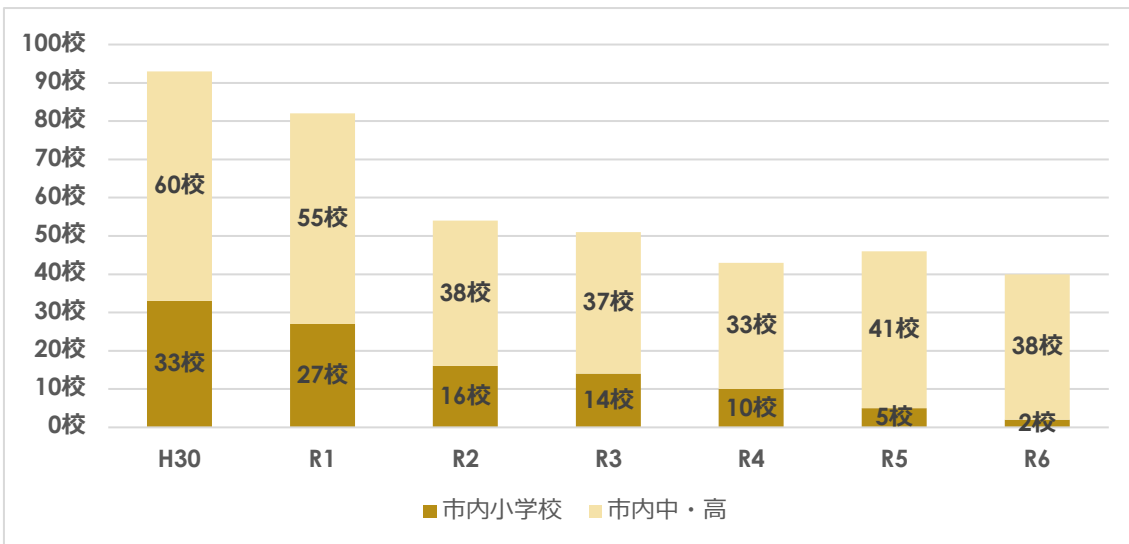


(2) 索道別利用者数（R 6 年度）



令和6年度の索道利用者数は、ゴンドラリフトが328,039人と最も多くなっています。また、5基設置されているペアリフトのうち、センターハウスからのアクセスが良く、競技用コースへの動線としても利便性の高い第1ペアリフトの利用が最も多い結果となり、次いで、未圧雪コースや急斜面コースが多く設けられている第5ペアリフトが、上級者やインバウンド利用者から高い評価を得ていることから、利用が多くなっています。

(3) 市内利用学校数（小・中・高校）



昨今の人件費や燃料費の高騰によるバス輸送費の上昇等により、スキー学習で利用する学校数は年々減少傾向にあります。

令和6年度の市内小学校の利用校数は、平成30年度から94%減少し、同様に中学校・高等学校も37%の減少となっています。

(4) 指定管理事業における索道事業と自主事業の収支

指定管理者が行うリフトやゴンドラの運営に係る索道事業とシャトルバス運行等、利用者増に向けて行う自主事業の収支は赤字が常態化しており、特に令和5年度は人件費や光熱水費の高騰により大幅に拡大しましたが、令和6年度は来場者数の増加やリフト利用料金の見直しにより、黒字に転じました。

(円)

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
収 入	151,696,607	173,008,511	209,717,718	274,958,997	429,500,964
支 出	162,453,543	184,965,428	221,020,457	298,755,773	375,454,394
収 支	△10,756,936	△11,956,917	△11,302,739	△23,796,776	54,046,570

3 これまでの主な取組

これまでに実施してきた主な取組は以下のとおりです。

(1) サービスの向上

ア ICゲートの導入

ゴンドラリフト乗り場へのICカード対応型のゲート導入により乗車を効率化

イ ピックアップボックスの導入

WEBで購入したリフト券を事前に受け取れるピックアップボックスをセンターハウスのほか、市内宿泊施設等に設置し、リフト券売り場の混雑を緩和

〈主な設置場所〉

OMO7旭川 / アートホテル旭川 /
ホテルWBFグランデ / 旭川トーヨーホテル
ホテルウィングインターナショナル旭川駅前
※今後さらに拡大予定



ウ キャッシュレスへの対応

センターハウス等のレストラン・売店に新紙幣及びキャッシュレスに対応した券売システムを導入



エ 2次交通の確保

旭川市内をはじめ、旭川空港や札幌市とリンクスを結ぶバス路線を確保

〈現在の路線〉

- 旭川市内便
- 旭川空港便
- 札幌便



オ ゲレンデコースの増設

パウダースキー需要の増加に応えるため、
26コース目となるロイヤルパウダーコース
(未圧雪コース)を増設

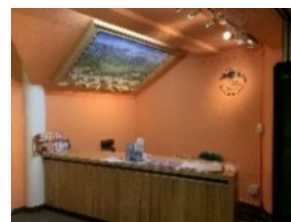
〈ロイヤルパウダーコース〉

- 全長：400m
- 最大傾斜：35°



カ 多言語化への対応

コンシェルジュデスクに英語・中国語対応スタッフが
常駐し、インバウンド利用者に対応するほか、レンタル
コーナーに外国語対応が可能な人材を起用



キ 施設のバリアフリー化

誰もが利用しやすい施設を目指し、バリアフリー環境の整備を推進

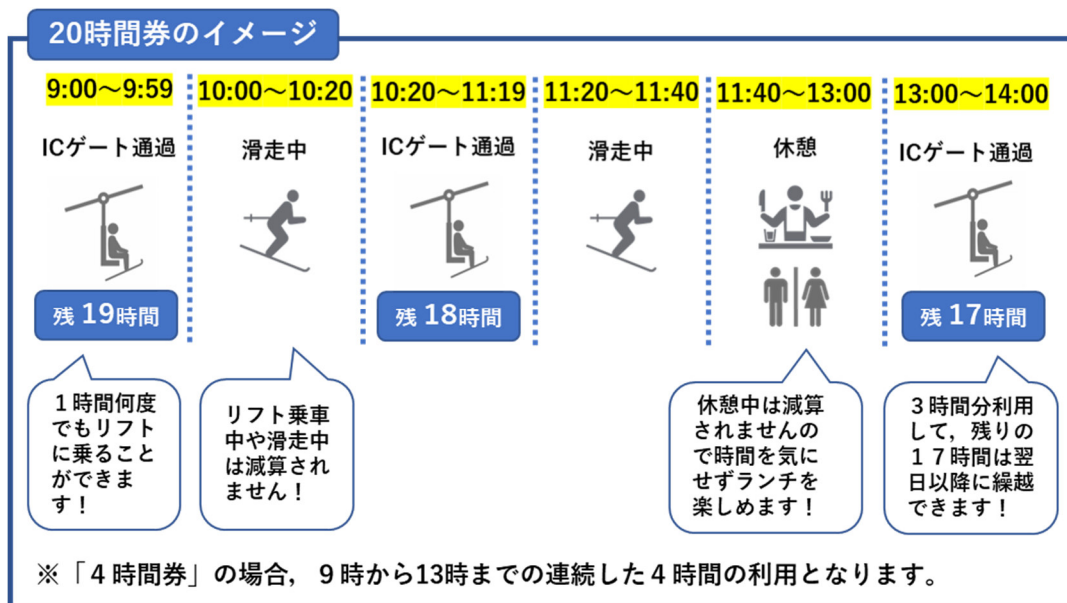
〈現在の整備状況〉

- バリアフリースイートの設置
- 障がい者専用駐車場の設置
- 車イス対応スロープの設置



ク 地域住民向けリフト券の導入

市民や近隣市町村利用しやすいようシーズン券への市民割引やシーズン中に日付をまたいで利用できる「20時間券」を導入



(2) 大会・合宿の誘致

リンクスは多様なコースを有する環境であることから、毎年多くの大会が開催されているほか、香港スキー連盟をはじめ、国内外から多くの合宿を受け入れています。

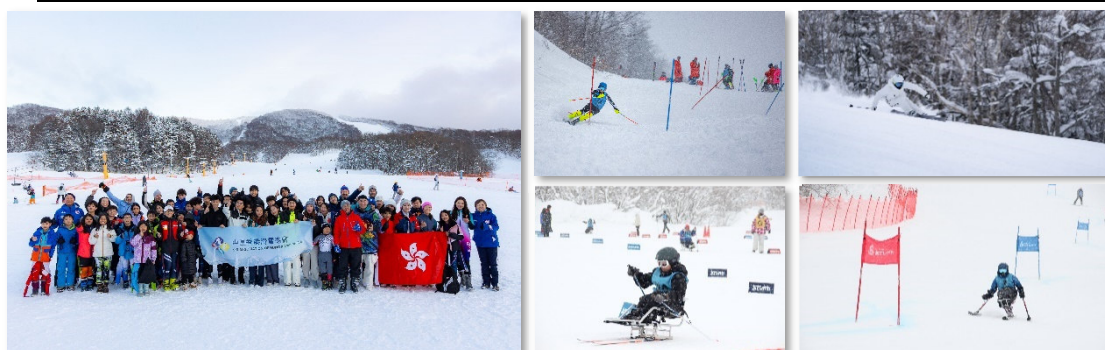
〈過去の大会〉

- 全日本スキー選手権大会
- 全日本学生スキー選手権大会
- 第44回北海道障害者冬季スポーツ大会 ほか

〈合宿実績〉

(チーム/人)

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
チーム数	286	319	496	308	371
人 数	3,493	5,509	5,719	5,021	5,807



(3) グリーンシーズンの取組

冬季のみではなく、夏季にもリンクスの敷地を利用したイベントを開催しています。

〈これまでに開催したグリーンシーズンのイベント〉

- ゴンドライド（紅葉シーズンのごンドラ運行、神居山山頂の展望台設置、ロックガーデンの設置、マウンテンバイクツーリング、モルック体験）
- ドリフトチャレンジ（駐車場スペースを貸与し実施されるドリフトイベント）

ほか

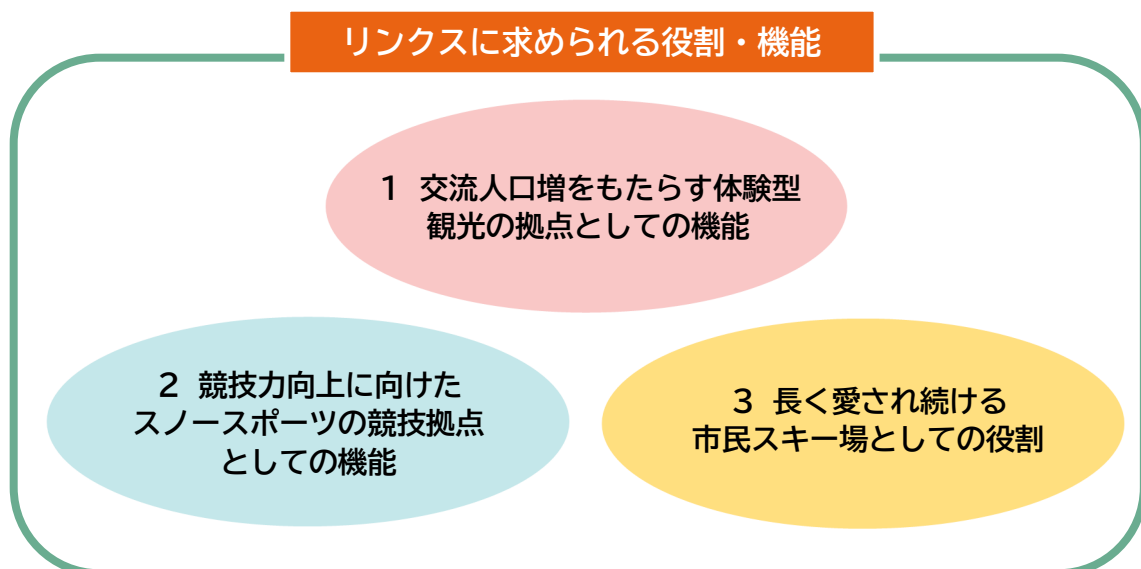


第3章 リンクスに求められる役割・機能

リンクスは、道北最大級かつ都市近郊型スキー場としての利点を活かし、国内外から毎年多くの利用者を受け入れており、本市の冬季観光施策にとって重要な役割を果たしています。また、全国・全道規模の大会開催や合宿誘致の実績が多数あり、スポーツ振興にとっても欠かせない施設であること、さらには、初級者から上級者まで幅広いニーズに応えることができる多彩なコースを有し、小さな子供連れの家族やシニアの方にもご利用いただき、地域の皆様からも長年にわたって親しまれてきた歴史ある施設です。

こうしたことを踏まえ、リンクスがこれからも果たしていかなければならない役割や維持すべき機能について次のとおり整理します。

これらの役割や機能を強化し、来場者数の確保を通じたより安定的な経営基盤の確立を目指すため、今後の取組を検討します。



1 交流人口増をもたらす体験型観光の拠点としての機能

リンクスは、市内中心部から車でおよそ30分程度という好立地にあることから、中心部に滞在する観光客にとっては、地元のグルメを堪能したり、旭山動物園の見学などと合わせてスキーを楽しむことができることが大きな魅力の一つとなっています。このため、市内宿泊施設と結ぶシャトルバスの運行やWEB購入した方が事前にリフト券を入手できるピックアップボックスを市内宿泊施設に設置するなど、都市型スノーリゾートの魅力向上に取り組んできました。

今後も、こうした取組の充実を図るとともに、利用者の増加に伴い、多様化するニーズへの対応を検討していきます。

今後の取組

ア アクセシ性の向上

現在の市内中心部とリンクスとを結ぶバス路線は次のとおりです。

【往路（市内⇒リンクス）】

始発 7:50発 / 最終 10:20発

【復路（リンクス⇒市内）】

始発 14:20発 / 最終 16:40発

※各1日6便運行



利用者の増加に伴い、往路第1便の混雑が課題となっています。

今後は、増便のほか短時間の利用を希望される方や午後のみスキーを楽しみたいという方のニーズに応えるため、指定管理者やバス運行会社と連携し、運行スケジュールの検討等、アクセス向上に向けた取組を進めます。

イ 都市型スノーリゾートの推進

都市型スノーリゾート推進にあたっては、市内宿泊施設や旅行代理店との連携強化が不可欠です。

現在、市内5か所の宿泊施設において、WEB購入者向けのリフト券を発券できるピックアップボックスを設置し、宿泊者の利便向上を図っています。今後はさらにピックアップボックス設置拡大の検討を進め、より一層の宿泊者の利便性向上に向け取り組みます。

また、リフト券付き宿泊パッケージの拡充をはじめ、「日中はリンクスでスノースポーツを楽しみ、夜は市内中心部で飲食・宿泊を楽しむ」といった、滞在型観光の促進を図ることで、スキー場と都市機能を組み合わせた都市型スノーリゾートの実現を目指します。

ウ レンタル事業の充実

主にインバウンド利用者に多くのニーズがあるスキー用具のレンタル事業は、現在、指定管理者の利便事業としてサービスを提供しています。用具は4年ごとに更新し、常に最新のものを提供し好評を得ていますが、貸出スペースが混雑し、狭あい化していることから、スペースの拡張や移転を視野に入れ、今後更なる利便性の向上を目指します。

2 競技力向上に向けたスノースポーツの競技拠点としての機能

リンクスは、天然雪が豊富で、F I S公認コースを含む多彩なコースレイアウトを有することから、毎年多くのスキー合宿を受け入れているほか、全道・全国規模の大会を数多く誘致しています。

今後もより多くのスキーマー、スノーボーダーに良好な練習環境を提供するとともに、積極的に大会を誘致することを通じて、地域の競技力向上や競技人口の増加を図り、リンクスから将来有望なスキーマー、スノーボーダーを輩出していけるような取組が重要と考えています。

今後の取組

ア コース整備の促進

現在、リンクスには26コースが整備されており、そのうち競技向けにデザインされたF I S及びS A J公認コースは3コースとなっています。今後も地元競技団体と連携しながら、公認コースの維持管理に努め、実践的な練習環境の提供及び大会の利用促進を目指していきます。

イ 圧雪車の計画的な更新

迅速かつ適切なコース整備が求められる競技大会の開催には、圧雪車の適正な配備が必要不可欠です。このため、将来にわたってリンクスが、スノースポーツの競技拠点としての機能を維持するためには、現在4台所有している圧雪車の定期的な更新が必要となります。

一方で、更新費用は高額となるため、耐用年数や財源を踏まえた更新計画を第4章にて後述します。



3 長く愛され続ける市民スキー場としての役割

インバウンド利用者が増加しているとはいえ、リンクスのメインユーザーは地域住民であり、コロナ渦においても多くの地域住民の皆様を支えられてきました。今後もより多く利用いただけるような取組を進めることが重要であると考えていることから、令和6年度の料金改定では、シーズン券への市民割引導入や20時間券の新設、小学生料金・スキー学習料金を据え置きにするなど、地域の皆様に利用しやすい料金体系を検討してきたところです。

今後も市民をはじめ、多くの方が安全で快適に利用できるような施設整備、サービスの向上を検討します。

今後の取組

ア 休憩スペースの確保

令和5年度のレンタルスペース拡張に伴い、センターハウス内に設けていた休憩スペースが廃止されることとなりました。これにより、学校授業やスキースクールに通う地元の子供たちをはじめ、地元利用者が十分に休憩できる環境が確保されていない状況となっています。

利用者へのアンケート結果からも休憩所の設置に関する要望が多く寄せられていることから、今後、新たな休憩スペースの設置について検討します。

イ 駐車場の拡張

利用者の増加に伴い、レンタカーや大型バスでの来場が増えていることを踏まえ、駐車スペース確保については、今後の課題として検討していく必要があります。

特に地域住民利用者の多くが車で来場される現状を考慮し、今後も快適にリンクスを利用いただけるよう、今後の利用者数の推移を見ながら、駐車場の拡張・整備について検討します。

ウ 新たなサービスの提供

リンクスが有する豊富で良質な雪や広大な敷地を活用しながら、スキーやスノーボードを行わない市民の皆様も楽しめるよう、スノートレッキングや展望テラスの設置等、リンクスの新たな楽しみ方を検討します。



エ 小中学生を対象とした利用促進事業

少子高齢化に伴い、全国的にスキー人口が減少傾向にあることから、競技人口の拡大もリンクスに求められる役割の一つとして捉えています。このため、雪国で育つ子供たちにスノースポーツを楽しんでいただくきっかけ作りの一環として、スキー用具のリユース事業や、小中学生を対象とした無料チケットの配布、サービスデーの設定等を検討します。

オ 更なるバリアフリー化へ向けた取組

施設のバリアフリー化が段階的に進められているものの、設置から40年以上が経過した施設には不便な箇所が多く残されています。旭川市スポーツ推進計画の中にも記載されているとおり、障がいのある方でも利用しやすいよう、施設のアクセシビリティを向上させることは、本市にとって重要な施策の一つです。

障がいの有無に関わらず、誰もが利用しやすい施設を目指すとともに、パラスポーツの推進に向けた施設整備を検討します。



バリアフリー化の一例（階段昇降機）

第4章 施設改修計画

建物・索道の経年劣化等による計画修繕及び改修については、指定管理者と締結している基本協定書に基づき、旭川市が実施します。

実施に当たっては、利用者への影響や老朽化の進行を踏まえ、優先順位を付けることで、各年度の事業費の平準化を図るほか、交付税措置がある有利な地方債を活用するなど、一般会計への影響が少なくなるよう計画します。

1 改修計画

(千円)

	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	R 1 1 年度
センターハウス		休憩所 100,000	建築・電気・機械 629,058	
レストハウス	厨房 10,000			
山頂レストハウス				建築・電気・機械 109,795
ゴンドラ		オーバーホール 70,400	オーバーホール 45,320	
第1リフト				オーバーホール 40,480
第2リフト		R 1 2以降にオーバーホール実施予定		
第3リフト		R 1 3以降にオーバーホール実施予定		
第4リフト				オーバーホール 40,480
第5リフト	設備工事 595,100			
圧雪車		更新(2台) 120,000	R 1 4以降に2台更新予定	
合計事業費	605,100	290,400	674,378	190,755
うち地方債	544,500	261,300	606,900	171,600
うち一般財源	60,600	29,100	67,478	19,155

※指定管理者が整備するものは除く

2 地方債の償還計画

施設改修を計画どおりに進めた場合の地方債の償還スケジュールは次のとおりです。

毎年度、元利償還金を返済していくためには、安定的な施設運営を通じた、自立的な経営基盤の確保が重要となります。

(千円)

年度	センターハウス		レストハウス	山頂レストハウス	ゴンドラ		第1リフト	第4リフト	第5リフト	圧雪車	合計
	R9	R10	R8	R11	R9	R10	R11	R11	R8	R9	
R8			127						467		594
R9	180		486		162				28,875	191	29,895
R10	4,854	486	485		3,413	148			28,836	21,733	59,956
R11	4,847	30,522	484	184	3,409	2,196	145	145	28,800	21,705	92,438
R12	4,842	30,487	484	5,327	3,405	2,194	1,963	1,963	28,766	21,678	101,109
R13	4,835	30,443	483	5,320	3,400	2,191	1,960	1,960	28,725	21,649	100,965
R14	4,829	30,406	482	5,313	3,396	2,188	1,958	1,958	28,690	21,621	100,841
R15	4,823	30,367	482	5,306	3,392	2,185	1,955	1,955	28,653		79,119
R16	4,816	30,329	481	5,300	3,387	2,182	1,953	1,953	28,617		79,018
R17	4,810	30,294	481	5,294	3,383	2,180	1,951	1,951	28,583		78,926
R18	4,805	30,250	526	5,286	3,378	2,177	1,948	1,948	31,283		81,599
R19	5,258	30,211	521	5,279	3,698	2,174	1,945	1,945	30,965		81,997
R20	5,206	33,079	515	5,273	3,661	2,380	1,943	1,943	30,655		84,655
R21	5,153	32,750	510	5,775	3,625	2,356	2,128	2,128	30,342		84,766
R22	5,100	32,407	505	5,714	3,586	2,331	2,106	2,106	30,019		83,873
R23	5,047	32,082	500	5,658	3,550	2,308	2,085	2,085	29,707		83,021
R24	4,991	31,726	494	5,596	3,510	2,283	2,062	2,062	29,377		82,100
R25	4,938	31,395	489	5,538	3,473	2,259	2,040	2,040	29,062		81,234
R26	4,885	31,059	483	5,479	3,436	2,234	2,019	2,019	28,744		80,358
R27	4,831	30,722	472	5,420	3,398	2,210	1,997	1,997	28,391		79,440
R28	4,756	30,387		5,362	3,352	2,186	1,976	1,976			49,994
R29		30,026		5,304		2,126	1,954	1,954			41,364
R30				5,244			1,928	1,928			9,100
合計	93,806	589,430	9,490	102,972	66,015	42,487	38,013	38,013	557,555	108,578	1,646,361

※千円未満を四捨五入しているため内訳と合計が合致しない場合があります。

第5章 収支の見通し

1 収支の推計（指定管理事業）

これまで述べてきた様々な取組や施設整備が計画どおり推進されることを前提とした、来場者数及び指定管理事業（索道事業）の収支の計画は以下のとおりです。

（人／千円）

	決 算	予 算	推 計			
	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
来 場 者 数	122,101	123,000	124,230	125,472	126,727	127,994
収 入	424,640	360,347	434,805	439,153	443,545	447,980
支 出	337,157	349,967	362,916	376,344	390,269	404,709
収 支	87,483	10,380	71,889	62,809	53,276	43,271
基金積立額	8,570	88,500	78,300	84,600	82,400	80,000
基金取崩額	9,859	0	594	29,895	59,956	92,438
基金残高	16,139	104,639	182,345	237,050	259,494	247,056

※基金積立額は指定管理事業、自主事業、利便事業の各収支の一部の合計額

※基金取崩額は毎年度の地方債元利償還金相当額

〈来場者数〉

令和7年度以降の来場者数については、平成30年以来過去最高値となった令和6年度の実績と同水準を想定した計画とします。

〈収入〉

令和6年度に実施した利用料金の見直し後の『1人当たり単価』×『各年度の来場者数』で計画値を算出しています。

なお、今後、条例で定める範囲内でリフト料金に変更になった場合には、収支見通しの見直しを行います。

〈支出〉

近年の人件費や物価の高騰を踏まえ、令和6年度決算額と比較した令和7年度予算の増加率を基に計画値を算出しています。

〈カムイスキーリンクス施設整備基金〉

リンクスの施設整備に必要な経費の財源に充てるため、ふるさと納税を通じた全国の皆様からの寄附や、リンクスの運営において、収支に余剰が生じた際に指定管理者から納付される納付金を積み立てるカムイスキーリンクス施設整備基金を造成しています。

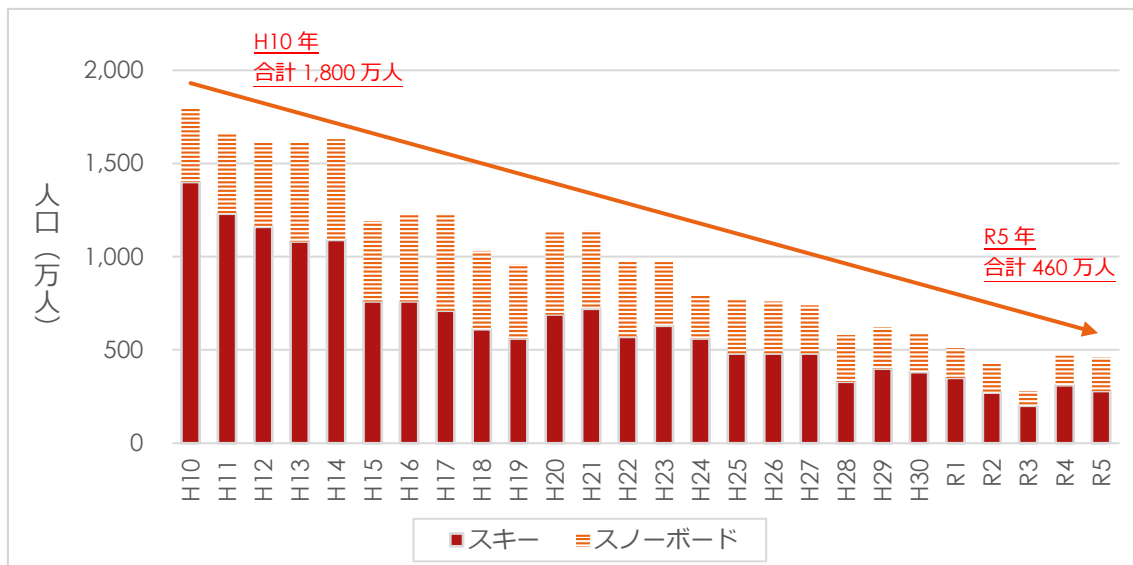
令和7年度以降の積立額については、ふるさと納税や利便事業からの積立額は令和6年度の実績と同程度とし、索道事業及び自主事業からの積立額は計画した収入額から算出しました。

前章で述べた施設の改修費や地方債の償還財源として活用するため、一定額を取り崩すものとします。

(参考) 各種資料及び調査結果

1 国内スノーリゾート市場の現況

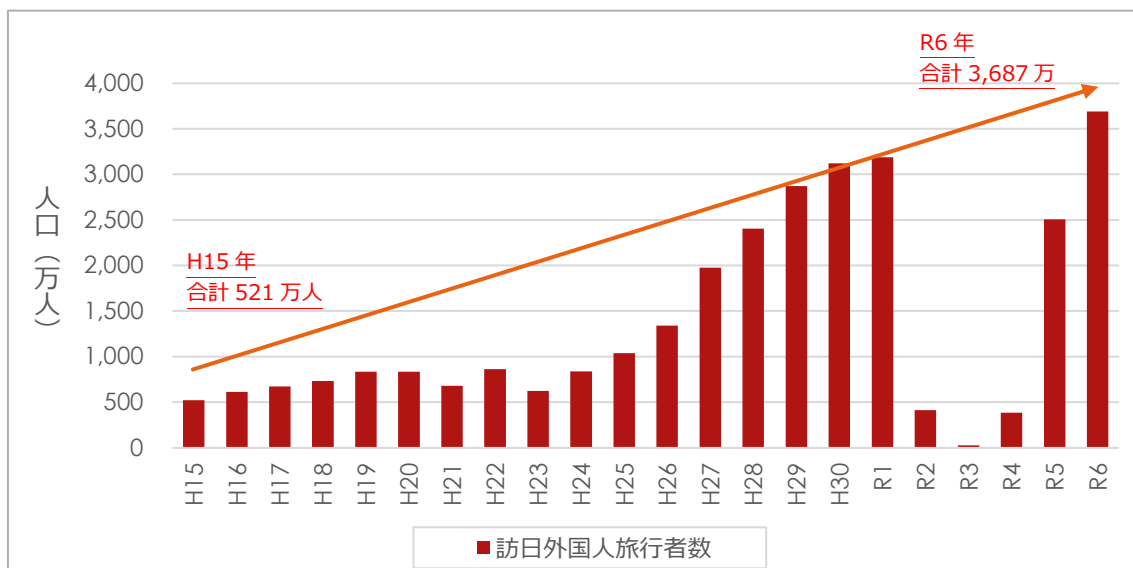
(1) 日本国内のスキー・スノーボード人口の推移



(参考：公益財団法人 日本生産本部「レジャー白書」)

国内のスキー・スノーボード人口は減少を続けており、平成10年度には1,800万人に達しましたが、新型コロナウイルスの影響を受けた令和3年度には280万人にまで減少しました。令和5年度には460万人まで回復しましたが、依然としてピーク時の約4分の1にとどまり、スキー場の運営には厳しい状況が続いています。

(2) 外国人旅行者数の推移

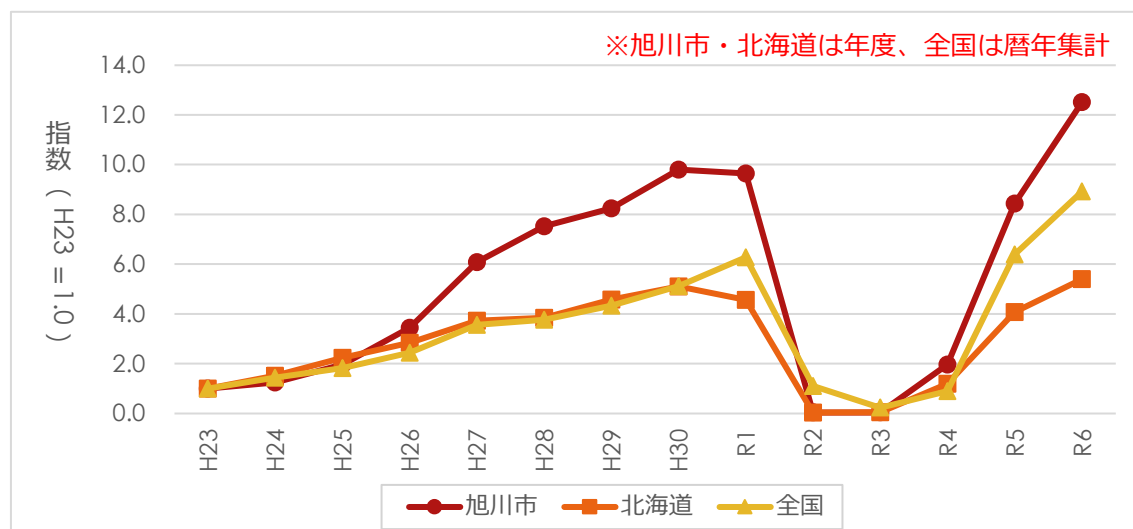


(参考：観光庁「訪日外国人旅行者数・出国日本人数」)

訪日外国人旅行者は、新型コロナの影響を受けた令和3年度には25万人にまで大きく落ち込みましたが、令和6年度には3,687万人とビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC※）が開始された平成15年度の約7倍に拡大し、年々増加しています。

※ビジット・ジャパン・キャンペーン（Visit JAPAN Campaign）は、日本政府が平成15年度から実施している訪日外国人を増やすために日本の魅力をアピールする活動。

（3）外国人宿泊者数の比較



（参考：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」、観光庁「宿泊旅行統計調査」）

旭川市・北海道・全国の平成23年度における外国人宿泊者数の指数を1とし、推移を比較すると、旭川市の外国人宿泊者数の伸び率は、コロナ禍前後の平成26年度から令和元年度、令和4年度から令和6年度において、北海道・全国を大きく上回っています。

〈外国人延べ宿泊者数〉

（万人）

	旭川市	北海道	全国
H23	2.5	165.3	1,841.6
H24	3.1	250.1	2,631.4
H25	4.9	368.8	3,349.6
H26	8.6	470.1	4,482.5
H27	15.2	616.4	6,561.5
H28	18.8	635.2	6,938.9
H29	20.6	757.2	7,969.1
H30	24.5	844.4	9,427.5
R1	24.1	753.6	11,565.6
R2	0.1	6.2	2,034.5
R3	0.1	7.4	431.7
R4	4.9	197.7	1,650.3
R5	21.1	673.3	11,775.1
R6	31.3	892.5	16,446.3

(4) 各分析結果から示されたリンクスが目指すべき姿

ア インバウンド利用を呼び込む道北随一のスノーリゾート

- ・スキー・スノーボード人口が減少する中で、インバウンド利用者を呼び込み、稼げる施設づくりを目指す
- ・インバウンドを重視する雪質の良さをアピールするとともに、コースの充実、スキー以外のアクティビティの充実が求められる

イ 地域のスノースポーツ・レクリエーションの振興・発展のための拠点施設

- ・学校授業や地域住民が利用しやすい料金体系の構築
- ・サービスデーの実施
- ・パラスポーツの利用等

(5) 目指すべき姿を実現するために強化すべき機能

調査委託先からは、目指すべき姿を実現するために強化が必要であると思われる機能が示されました。その中には、すでに本市で取組をはじめたものも含まれていたため、ここではまだ着手していない、あるいは不十分であると思われる取組についてお示しします。

ア 第5リフトエリアの魅力向上

- ・第5リフトが設置されているエリアは、未圧雪コース、ツリーランコースが多く、上級者やインバウンドの人气が高い
- ・リフトの改修と合わせて、コースの魅力向上、充実を強化する取組を行うことで、集客力の向上につながる

イ バリアフリー環境の整備

- ・センターハウスなどには、エレベーター等の昇降機がない
- ・本市がパラスポーツなどの取組を進めるにあたっては、バリアフリー環境の整備が必要である

ウ 通年での集客機能の強化

- ・グリーンシーズン（4～11月）の施設有効活用が必要
- ・山頂からマウンテンバイクで走行するツアーやジップラインなどのアクティビティの新設
- ・夏季イベントの誘致

(6) 調査結果の総括

国内のスキー・スノーボード人口が減少する中で、良好な雪質を誇るカムイスキーリンクスは、外国人訪日旅行者にとっては魅力的な観光施設であるととらえられている。良質な雪を求めて訪れる外国人旅行者に対しては、そのニーズに応えられるようなコースの整備が求められます。

また、市民のスポーツ拠点としての機能を考えると、サービスデーの実施やグリーンシーズンの施設活用、バリアフリー化など取組を行う余地がまだ残されています。

2 利用者アンケートの結果

(1) アンケート概要

計画策定に当たり、利用者を対象としたアンケート調査を実施しました。

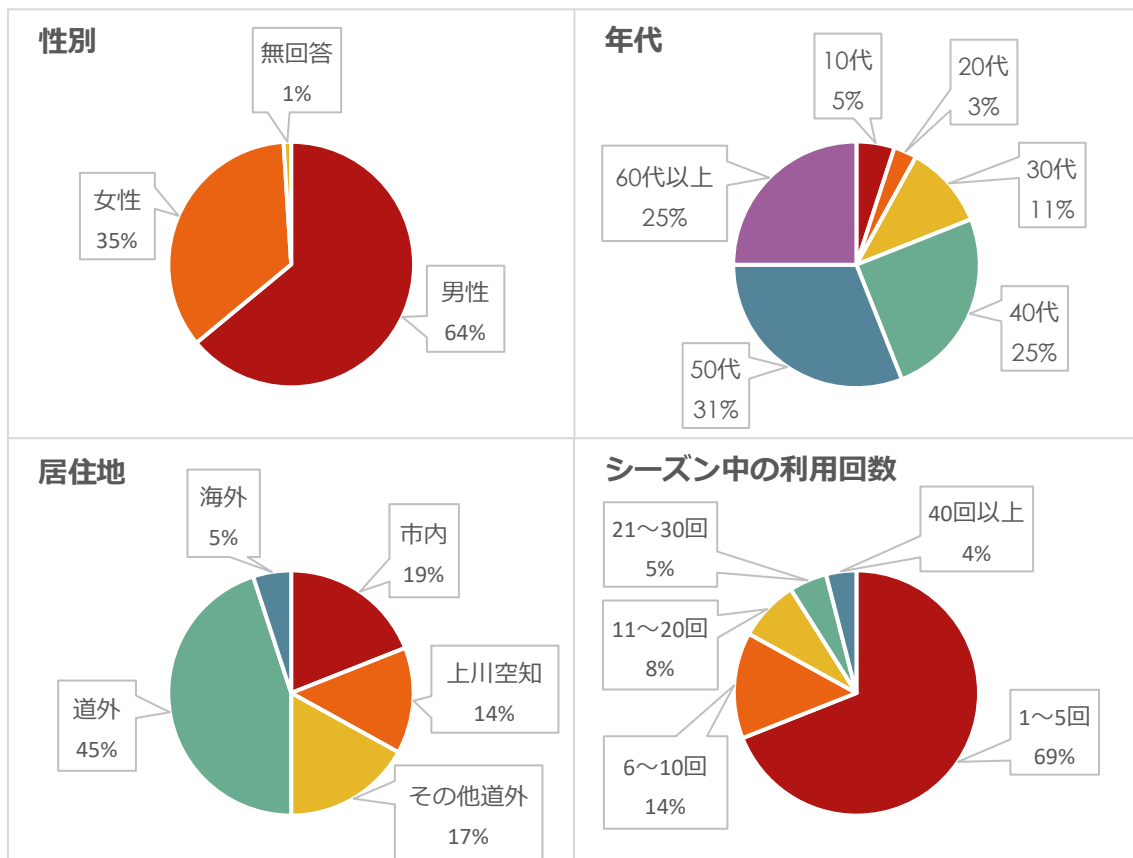
調査期間	令和7年2月7日（金）から3月31日（月）まで
実施方法	WEBアンケート（センターハウス等の建物内にアンケートの二次元バーコードを掲示）
実施場所	センターハウス（1階ロビー、2階レストラン ほか）、休憩所 ラーメンハウス、山頂レストハウス
回答数	264件

(2) アンケート結果

ア 回答者の属性

アンケート回答者のうち、男性が約6割を占め、年代別では40代以上の方が全体の8割を占める結果となりました。居住地については、旭川市を含む道内地域の方が約半数を占め、残りの半数は道外・海外から訪れた観光客でした。

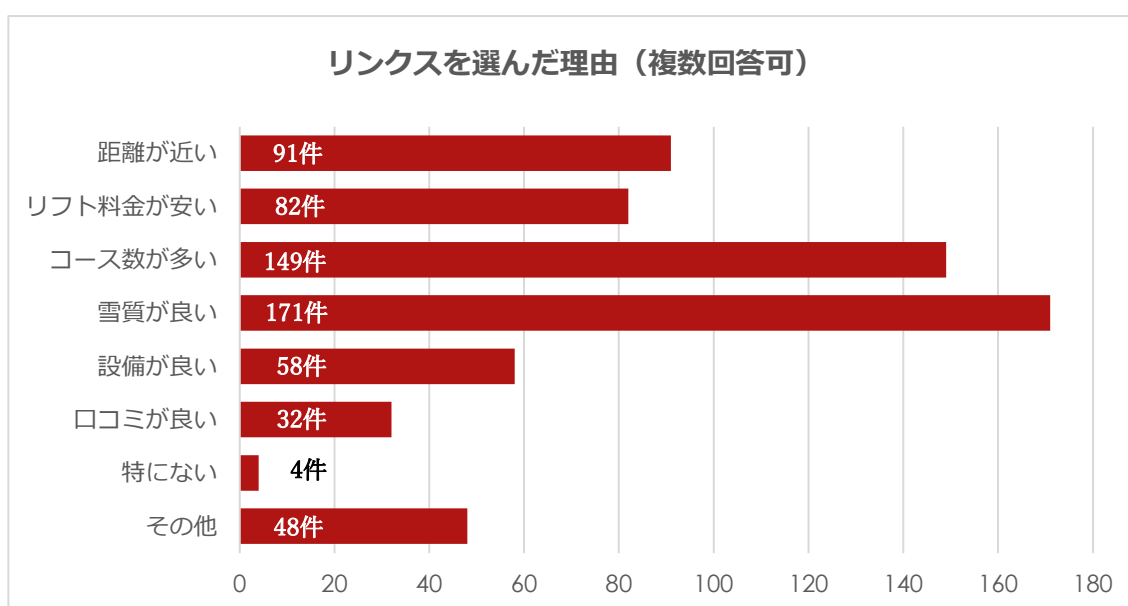
また、全体の約3割がシーズン中に6回以上リンクスを訪れているリピーターであることがわかり、幅広い層の方々からご回答いただけたことが確認されました。



イ カムイスキーリンクスを選んだ理由

理由として最も多い回答が「雪質が良い」、次いで「コース数が多い」といった結果となり、シルキースノーと称される雪質と、多様なコース設定が利用者の満足度に大きく貢献していることが明らかとなりました。この結果から、雪質の維持とコースの多様性を確保することが、今後のスキー場利用者数の増加において重要な要素であることが伺えます。

また、その他の意見を踏まえると、2次交通の確保やＩＣゲート導入など、これまで行われてきた取組が、カムイスキーリンクスを選ぶ理由に繋がっていることも確認されました。



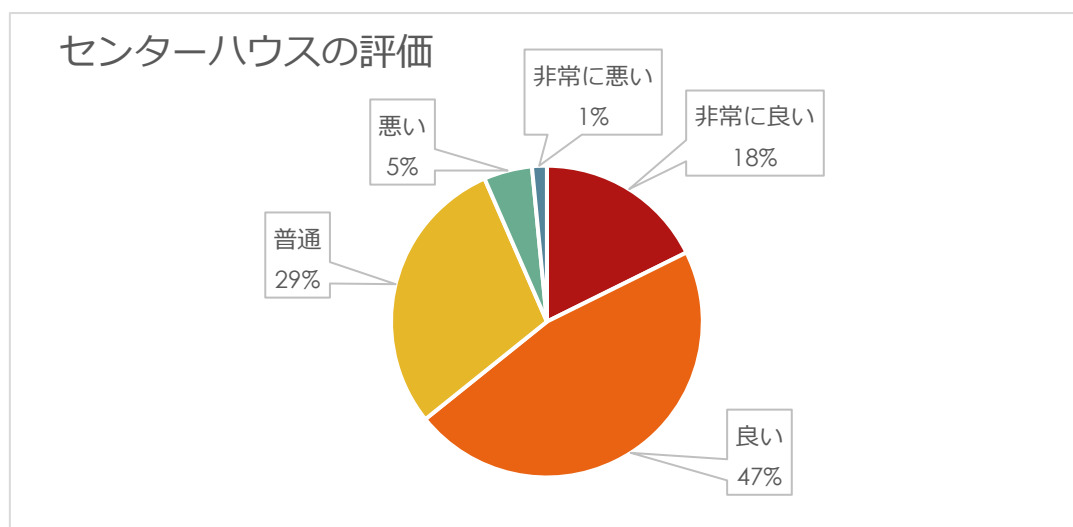
その他の意見
・ 学生時代によく利用していた。
・ 他のスキー場に比べ空いている。
・ 札幌からのバス料金が安い。
・ リフトの待ち時間が短い。
・ ＩＣゲートが導入されていて乗り降りしやすい。
・ 市街地から近く、混雑していない。

ウ 施設の評価

(ア) センターハウスの評価

「非常に良い」「良い」といった評価が全体の約6割を占め、特に「トイレの清潔さ」や「荷物置き場の設置」といった意見が目立つことから、施設の清潔感と設備の充実度が利用者にとって重要であることが伺えます。

一方で、改善すべき点として「休憩所の不足」「施設内の混雑」に関する意見が多く寄せられ、利用者の快適なスペース確保に向けた対策が求められていることが確認されました。



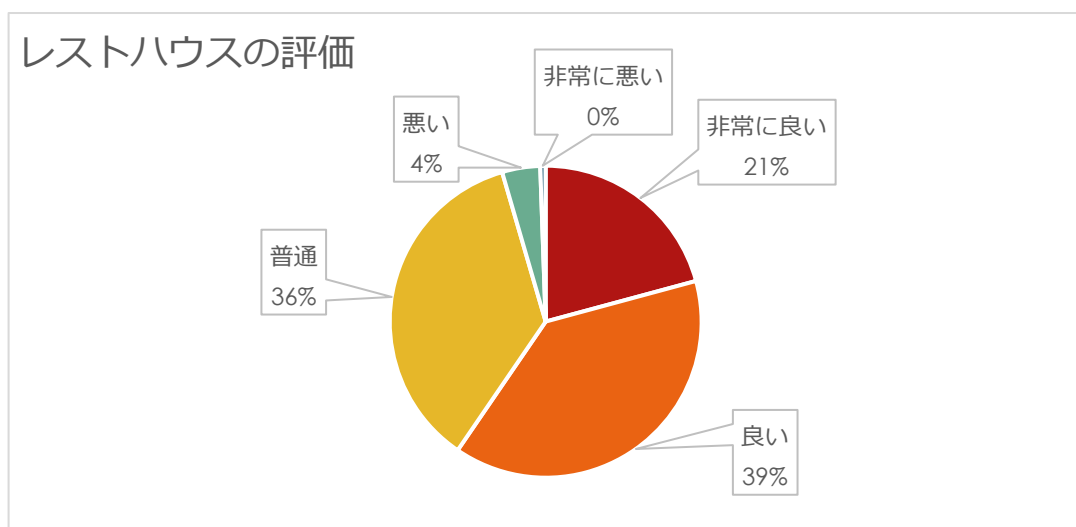
センターハウスの良い点
・トイレが綺麗で全体的に清潔感がある。
・レストランのメニューが豊富で、食事が美味しく、値段も安い。
・荷物置き場が多く、使いやすい。
・キャッシュレス決済が導入されている。
・動線が確保されているため、混雑していてもあまり気にならない。
・自動券売機や食堂の呼出ディスプレイが便利。

センターハウスの改善点
・休憩できるスペースがない。
・レンタル、リフト券の購入に時間がかかる。
・券売機の台数が少ない。
・繁忙時期はセンターハウスが手狭。

(イ) レストハウス（ラーメンハウス）の評価

「非常に良い」「良い」といった評価が全体の6割を占め、特に「ラーメンが美味しい」といった意見が多く寄せられたほか、「混雑していない」という声も見受けられました。これにより、センターハウスのレストランや山頂レストハウスといった食事ができる施設が複数あることが、混雑の緩和に寄与していることが伺えます。

一方で、センターハウスと比較して、施設・設備の老朽化が目立つことから、「設備が古い」といった意見もあり、設備の更新が求められていることが確認できました。



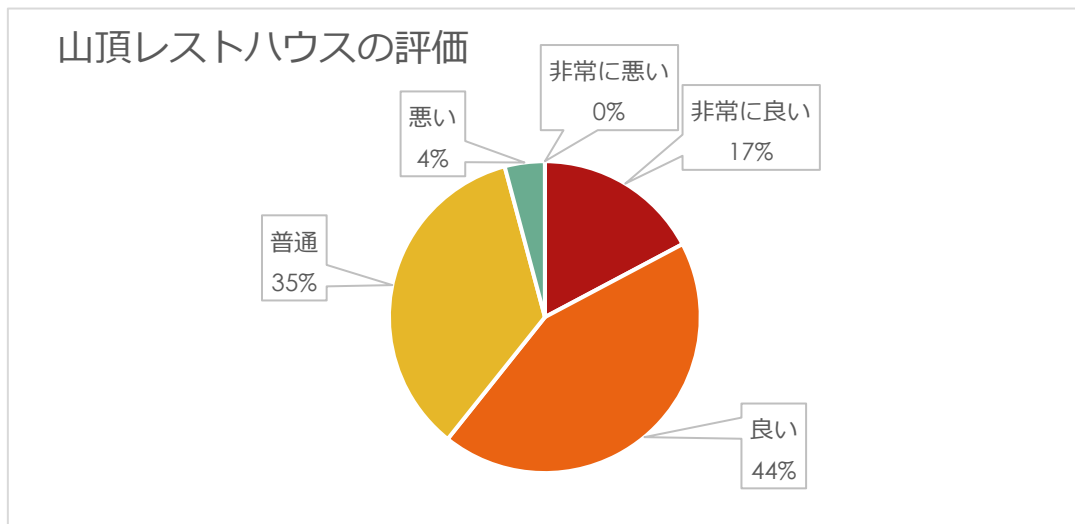
レストハウス（ラーメンハウス）の良い点
・ ラーメンが美味しい。
・ 値段が安い。
・ 施設内が広く、比較的に空いている。

レストハウス（ラーメンハウス）の改善点
・ 設備が古い。
・ テーブルの台拭きがほしい。

(ウ) 山頂レストハウスの評価

「非常に良い」「良い」といった評価が全体の6割を占め、施設内の「暖炉のある雰囲気」や「山頂からの眺望」が特に利用者に好評であることが確認できました。

一方で、改善点として、トイレに関する意見が多く、利便向上に向けた対策が必要であることが伺えました。



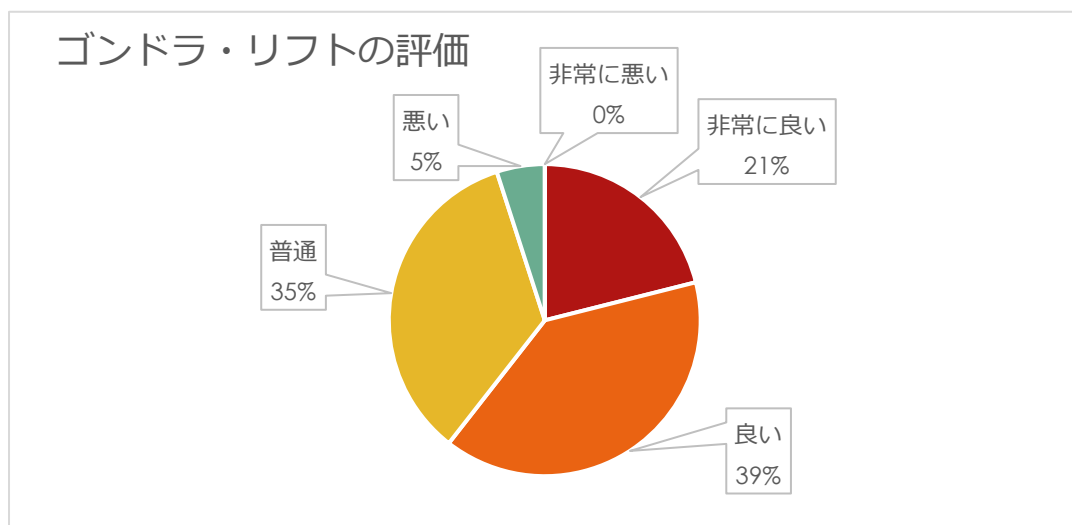
山頂レストハウスの良い点
・ 暖炉があり雰囲気が良い。
・ 窓から見える景色が良い。
・ ピザが本格的で美味しい。

山頂レストハウスの改善点
・ トイレが地下にあるため不便。
・ トイレの悪臭。
・ トイレの床が滑りやすく危険。

(I) ゴンドラ・リフトの評価

「非常に良い」「良い」といった評価が全体の6割を占め、特にゴンドラに関する好評な意見が多く寄せられました。また、「待ち時間が少ない」といった意見も多数あり、利用者が増加している中でも、快適にご利用いただけていることが確認されました。

一方で、施設の老朽化や設備の安全面についての懸念もあり、安心してご利用いただけるよう、設備の改修・改善に向けた継続した整備が必要であることが明らかとなりました。



ゴンドラ・リフトの良い点
・待ち時間が少ない。
・ゴンドラが綺麗でスピードが速い。
・ゴンドラの動線が良く、相乗りができる。
・ペアリフトの乗り継ぎでも山頂まで行ける。

ゴンドラ・リフトの改善点
・ゴンドラのサイズが小さい。
・リフト・ゴンドラの運行時間が短い。
・風が吹くと寒いため、リフトにフードを付けてほしい。
・第5リフトが古いため、建て直した方が良い。
・週末は混雑するため、山頂までの高速リフトがほしい。
・一部のリフトにセーフティーバーがない。

エ その他の施設・設備の改善点

その他の主な意見として、「リフト料金が高い」「親子割・道民割の導入を希望する」といったリフト料金に関する意見が多く、特に子どもや地域住民に配慮した市民スキー場として役割強化が求められていることが伺えました。

施設面では、「第5リフトのトイレ改善」に関する意見が多数寄せられたほか、「更衣室の不足」「トイレの不足」といった利便性の向上を求める声が目立ちました。

また、「駐車場の拡張」や「ナイター設備の整備」を求める意見もあり、今後も長く愛されるスキー場として、施設整備の重要性が改めて認識されました。

その他の施設・設備の改善点
・ 今後のスキー振興を考え、子連れに優しい親子券や割引を復活させてほしい。
・ リフト料金が高い。道民割を設定してほしい。
・ 緩斜面にコブ練習用のコースを作してほしい。
・ 第5リフトのトイレが汚くて利用できない。
・ 更衣室が足りない。
・ 白樺コースを滑走できる日が少ない。ポール練習が多すぎる。
・ トイレの数を増やしてほしい。
・ 駐車場が狭い。
・ ナイター設備を作してほしい。

(3) 総評

各施設の利用者の半数以上は、「非常に良い」又は「良い」という回答でした。しかし一方で、改善点に対する意見も多く寄せられました。

簡単な工夫によって改善できそうなものもあれば、改修・修繕を要するものもありました。また、来場者の増加が起因していると思われる課題やサービス面に関する指摘も多数いただきました。

3 従業員への聞取

(1) 聞取結果

○レストハウス（ラーメンハウス）

建物に隙間風が入り、スキーウェアを脱げない方を見かける
暖房機器が家庭用2台のみであるため、建物内が寒い
室内の断熱性能が低い。以前雨漏りがあった天井部分が原因である可能性がある
厨房などの壁の損傷、老朽化が激しい
男女ともにトイレの調子が悪い
電波状況が悪く、電子決済がスムーズにいかないことがある
床がコンクリートむき出しのため転倒リスクがある

○山頂レストハウス

窓からの隙間風がある
シンクから若干の漏水がある
使用できない照明器具、換気扇がある
1階にトイレがあるが、非常に滑りやすく転倒のリスクがある

(2) 総評

センターハウス以外の主要2施設の従業員に聞取りを行ったところ、両施設でも老朽化に伴う設備の不具合や故障などが生じていることが確認されました。また、両施設とも隙間風による寒さや、利用者の転倒リスクが懸念されていることから、これらに対する対策を検討する必要があります。